

労働法Ⅱ

科目ナンバリング SOL-202
選択 2単位

藤木 貴史

1. 授業の概要(ねらい)

私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いので、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられるようにさまざまな規制を行う法分野です。

労働法Ⅱでは、労働法Ⅰを前提として、個別的労働法のうち社会的影響を受けやすい問題と、雇用保障法を講義します。労働法Ⅰと労働法Ⅱは連続性が強いので、両方連続して履修することを強く勧めます。

※教科書購入必須。試験の際には、教科書のみ持ち込みを認めます。講義中詳細に触れられない点については、教科書で学習するよう指示することがあります。

※進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。

2. 授業の到達目標

- ①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
- ②労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。

3. 成績評価の方法および基準

〈対面授業時〉

- ・期末試験: 4割(説明問題/事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る)
- ・中間試験/レポート: 3割(口頭試験または説明問題/事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る)
- ・小テスト: 3割(穴埋め問題/選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る)

〈オンライン授業時〉

- ・期末レポート等: 5割(説明問題/事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る)
- ・小テスト: 5割(穴埋め問題/選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る)

※小テストはLMSを通じて毎回出題する予定です。出席のみ/オンライン授業を聞くのみでは平常点となりません。

4. 教科書・参考文献

教科書

藤本茂ほか『ファーストステップ労働法』 エイデル研究所(2020年)

村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選(第9版)』 有斐閣(2016年)

参考文献

日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集(2021年版)』 日本労働政策研究・研修機構

鎌田耕一『概説 労働市場法』 三省堂(2017年)

5. 準備学修の内容

講義前: 2時間程度を目安に、テキストの当該箇所を読む。不明点をノートに書きだし、講義中に問題点を理解できるようにしましょう。前回の内容を忘れた場合には前回の講義音声聞きなおしましょう(オンライン授業時)。

講義後: 2時間程度を目安に、小テストへの取り組み、教科書の練習問題への解答。友達・家族に、その日聞いた労働法のおおまかな仕組みを説明できる程度まで復習しましょう。

6. その他履修上の注意事項

【授業に臨む姿勢】

- ・教科書の購入は必須です。六法/法令集も授業に必ず持つてくること。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。オンライン授業の場合でも、週に1度、月に数度など頻度を決めて受講することを強く勧めます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【関連科目】

本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法(民法総則、債権総論、契約法)、③行政法、④民事訴訟法、⑤刑法などの基礎的知識があることが望ましいです(ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません)

7. 授業内容

- 【第1回】 《イントロダクション》 労働法と日本の雇用の現実/日本的雇用慣行
- 【第2回】 《人事制度(1)》 配転/出向、転籍
- 【第3回】 《人事制度(2)》 昇・降格/企業再編
- 【第4回】 《懲戒》 企業秩序論/懲戒処分の根拠と限界
- 【第5回】 《労働災害》 労災保険とは何か/通勤災害と労災保険/労災民訴
- 【第6回】 《雇用平等(1)》 女性活躍推進法/育児・介護休業法/労基法と母性保護/賃金差別の禁止
- 【第7回】 《雇用平等(2)》 男女雇用機会均等法/セクハラ、マタハラ防止
- 【第8回】 《非正規労働(1)》 総論/有期・パート労働者の保護
- 【第9回】 《非正規労働(2)》 有期・パート労働者の均等待遇
- 【第10回】 《これまでのまとめ》 これまでのまとめと質問/映像で見る労働問題/中間的進度調整
- 【第11回】 《雇用保障法(1)》 総論/職業仲介法
- 【第12回】 《雇用保障法(2)》 労働者派遣制度
- 【第13回】 《雇用保障法(3)》 雇用保険法
- 【第14回】 《雇用保障法(4)》 雇用政策
- 【第15回】 《全体のまとめ》 日本的雇用慣行の今後